

郷土研通信



ハイマツ

発行：てしかが郷土研究会 (Teshikaga Regional Studies Association)
北海道川上郡弟子屈町中央3丁目2-10 (松橋方)

文章責任：松橋 秀和

アイヌ語：エビタブ (はねかえるもの)
硫黄山の低地に大群落がある
細川音次著『阿寒・摩周の植物』から

近況報告

「木下大門 ・相撲錦絵の世界」展

一月三日には弟子屈町功労賞文化奨励賞表彰式があり、木下大門さんが特別賞を授与されました。これを記念して弟子屈の有志が大門さんの作品の展覧会弟子屈町公民館で開催されました。

木下大門（浮世絵師・イラストレーター。弟子屈町出身。大相撲錦絵を手掛ける）さんは、中国を旅行中、木版画工房を見学した際に木版画を見て心を揺さぶられるものを感じ



じて、明治時代に消滅したと言われる錦絵を独学で習得されました。後に新しく

国技館が両国に落成した際に日本大相撲協会の関係者から「相撲浮世絵」の復活の声を掛けられます。大門さんの「相撲錦絵」作品は海外でも展示されている、とのこと。表書式の翌日には弟子屈高校で講演会をなされています。

弟子屈町出身の方が日本や世界各地で活躍されることは喜ばしいことです。

川小 出前授業

一月二日に川湯小学校五・六年生を対象に「松浦武四郎とテシカガ」を題材に「ふるさと教育」の一環で出前授業を松橋会長が行ってきました。

川湯小学校では来る一月一二日に松浦武四郎の生地松浦小野江小学校の児童とリモート交流を行う、とのこと。前段の基礎知識として交流のときの会話の一助になればうれしいことです。

情報提供

川湯ビジターセンターで講演会があります。入場料は無料です。
演題

日本最大のカルデラ湖「屈斜路湖はなぜ浅いのか」最新研究が解明したアトサヌプリ火山の秘密
講師
北海道大学理学研究院
特任教授 中川光弘氏
日時…二月六日(土)
13:30～15:30
入場無料

勉強会

『大鵬物語』

話題提供者 松橋秀和

弟子屈である程度の年代の会員には承知のことではあるが、日本大相撲の九州場所が開催中であり、大鵬の孫「王鵬」が関脇に返り咲き、相撲錦絵作家木下大門さんが弟子屈町功労賞文化奨励賞の特別賞を受賞されたことでもあるので、昭和の大横綱大鵬を改めて話

次回の例会

忘年会に変更

令和七年二月二〇(土)

一八〇〇

東寿司



会費 五千元

参加できる方は12月16日まで郷土研のLINEでメールなどでお知らせください。ゲストの参加も歓迎します。



題とした。話題の内容は『郷土学習副読本「人物編」大鵬物語』をベースに進められた。

会員からは、弟子屈出身の力士には「琴ヶ嶽」もいる、との発言があった。

琴ヶ嶽は西前頭筆頭（前頭一枚目）が最高位で怪我のため引退し、親方「白玉」を襲名して佐渡ヶ嶽部屋付の親方として後進の指導にあたった。日本大相撲協会を引退後は「川湯相撲記念館」で相撲の世界を伝えていた。

むかしむかし写真館

No. 360

川湯温泉の元祖 浅野清次

② 会員 酒 井 盛 興

清次 養女とともに

明治二七年、厚岸太田村の屯田兵の娘「五月女トヨ」を養女として迎える（トヨは七歳、清次は四七歳）。逃亡生活二七年目のことだ。逃

女性がいだが、逃亡生活で戸籍を持たない二人にとつては単なる共同生活者に過ぎない。
トヨを養女に迎えたのは何かの仕事をするにも土地を買うにも無戸籍ではどう



仁伏温泉。その歴史は古く明治31年に開湯した。温泉名の仁伏（ニブシ）とは、アイヌ語で木が割れ裂ける音のことで、樹木も割れるほど寒いと云う意味に由来する。 現存する入母屋造りの屋根の建物は、旧弟子屈営林署仁伏保養所（昭和17年に仁伏湖畔ホテルを買収）。 平成16年撮影

その後清次はすべてを五月女トヨの名をもって行動し、生涯五月女トヨの名の後ろに隠れ住んだ。それは身を隠す上においても一石二鳥でもあった。だからトヨは養女といながら「五月女」を

しようもなかったに違いない。「戸籍」のしつかりしたトヨを身のそばに置きたかったのだろう。



仁伏温泉の旅館にある浴槽右奥に鎮座する古びた石燈籠は、電気がない時代に灯りが灯されたのであろうか。

名乗り続けている。

清次の許にいた女性の存在は記録には出てこないが、トヨやトヨの子供たちを厳しく躾、清次亡きあとも存命をしていたようだ。

川湯へ

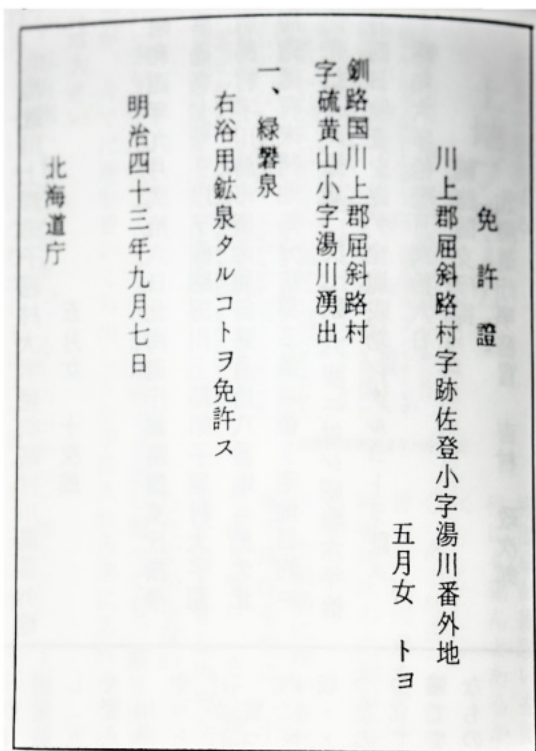
五月女克己氏のメモによると「トヨ一七歳のとき清次と川湯アメマス川上流付近に入植したらしい」とある。が、明治二七年にマッチ軸材伐りに仁伏に入り、明治三七年に川湯の居を移した場所（湯河原付近）

とは場所に違いがある。

『弟子屈商工のあゆみ』によると「明光社のマッチ軸木材刈り出しのために屈斜路に入り、明治三十一年に仁伏温泉を開き、明治三七年に川湯に入ったとされている」ので、仁伏で温泉宿を開いていた時期がメモでは確認できなかったと思われる。

清次は明治四三年にトヨ名義で浴用鉱泉の免許を取得している（トヨ二三歳、清次六三歳）。清次がトヨを必要としたのはこれだったのに違いない。

（つづく）



免許證

川上郡屈斜路村字跡佐登小字湯川番外地

五月女 トヨ

釧路国川上郡屈斜路村
字硫黄山小字湯川湧出

一、緑磐泉

右浴用鉱泉タルコトヲ免許ス

明治四十三年九月七日

北海道庁